

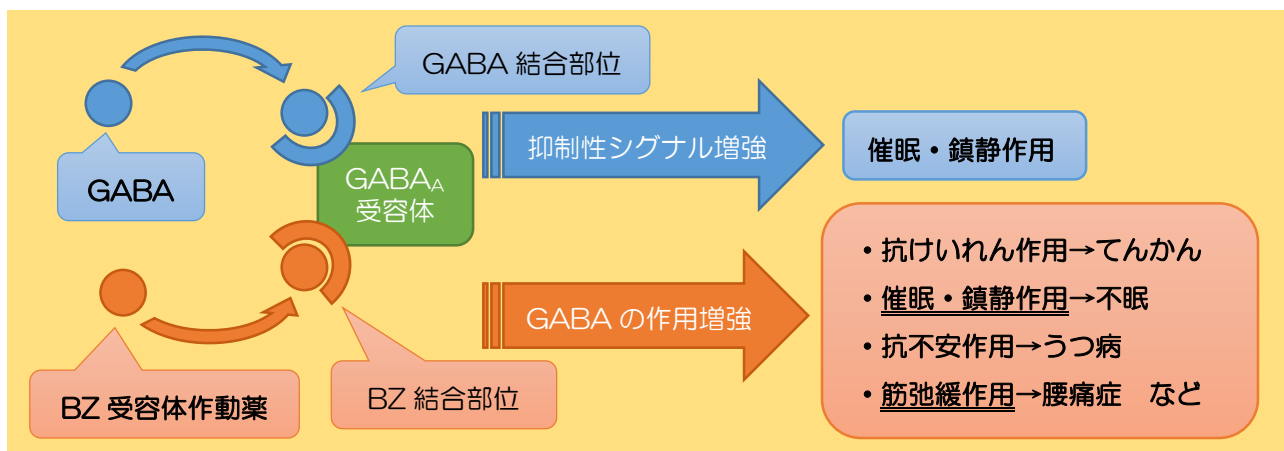
おくすり通信

No. 12 睡眠薬（BZ 受容体作動薬）

こんにちは、薬剤科です。先月は睡眠薬の概要についてお伝えしたので、今回はその中で使用される頻度の高い BZ 受容体作動薬の特徴についてより深くみていきましょう。

《BZ（ベンゾジアゼピン）受容体作動薬の作用の仕方》

私たちの脳内には様々な神経伝達物質が働いています。その中に GABA（ γ -アミノ酸）と呼ばれる抑制性の神経伝達物質があり、それにより抑制性のシグナルが増強すると、催眠や鎮静作用が現れます。BZ 受容体作動薬は GABA が結合する GABA_A 受容体の BZ 結合部位に結合して、GABA の作用を増強します。

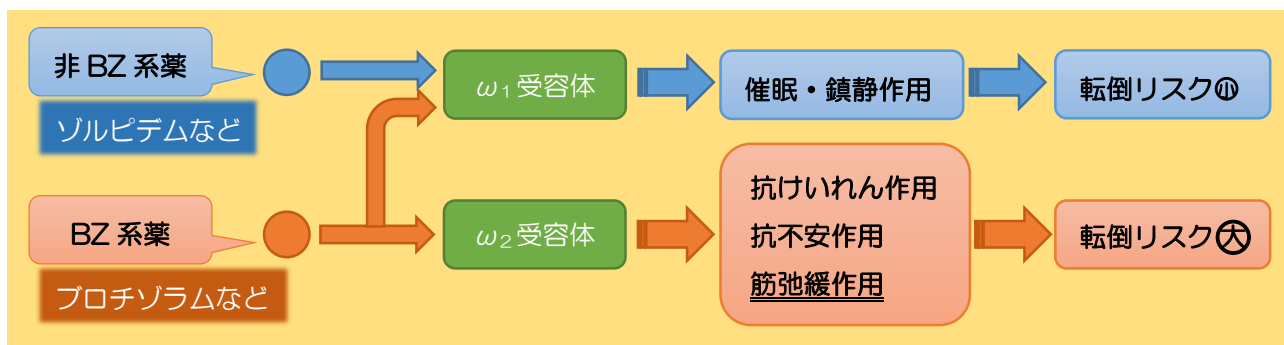


GABA の作用を増強すると催眠作用のほかに筋弛緩作用も現れるので、ふらつきや転倒のリスクが高くなります。BZ 受容体作動薬を内服する際には、特に骨の弱くなっている方には骨折の危険性もあるので、注意が必要となります。

《BZ 構造の有無で転倒リスクが変わる》

GABA_A 受容体には ω_1 と ω_2 の 2 つのタイプがあります。 ω_2 受容体に作用すると筋弛緩作用があらわれ転倒のリスクが高くなりますが、 ω_1 受容体は筋弛緩作用を示しません。

BZ 受容体作動薬には BZ 構造を持つ BZ 系薬と、BZ 構造を持たないが BZ 結合部位に結合する非 BZ 系薬があります。BZ 系薬は ω_1 及び ω_2 受容体いずれにも結合しますが、非 BZ 系薬は ω_1 受容体に選択的に作用するので、転倒のリスクが軽減すると考えられています。



そのほか、気になる点がございましたら、お気軽にご相談ください。